

西川善康写真展「davao 1996-1999」

作家名：西川 善康

会場：gallery 176 (ギャラリー イナロク)

大阪府豊中市服部元町1-6-1 / 阪急宝塚線 服部天神駅(梅田から11分)下車 徒歩1分

会期：2018年10月12日(金)～10月23日(火)

休廊日：10月17日(水)、18日(木)

開廊時間：13:00～19:00

企画：gallery 176 西川善康



(C) NISHIKAWA Yoshiyasu

作品説明：

作者西川は、1996～1999年の三年間、フィリピン南部ミンダナオ島のダバオ（Davao）に、青年海外協力隊員として赴任していました。今回は、その約20年前に現地で撮影した写真を展示します。作品は、海の上で生活するバジャウ（海漂民）の人たちや、現地の人々の生活など、常に前向きに生きるフィリピンの人々を撮影したものです。

作者は、1999年12月に帰国後一度もフィリピンを訪れておらず、来年2019年は帰国してから20年になるため、これを機に、フィリピン、ダバオを再訪する予定です。再訪時には、今回の20年前の写真を持って、可能であれば現地で展示し、現地で再び写真を撮り、その写真を来年日本、gallery 176で展示する予定です。

ダバオ（Davao City, Phippines）

ダバオはフィリピン第3の都市で、現在のドゥテルテ大統領が長期に渡って市長を務めていた街です。赴任当時もドゥテルテ大統領が市長を努め、夜回りをしていせいか、とても治安が良い街でした。戦前・戦時中はマニラ麻（船のロープなどに使用）の生産で多くの日本人が住んでいた街でもあり、日本人墓地や日本人街の名残もあり、多くの日系人が生活しています。

また、ダバオは、台風の発生する場所より南に位置しており、雨季が無く、日中は暑くてもほぼ毎日夕方にスクールがあり、現在の日本の夏よりは快適でした。果物も豊富で、フィリピン産のバナナの多くはダバオ周辺で栽培されており、果物の王様ドリアンの名産地です。

展示構成：

インクジェットプリント 約20～30点、プロジェクターによるスライドショーも予定



西川 善康（にしかわ よしやす）

略歴

1967年 福井県鯖江市生まれ

1990年 千葉大学園芸学部造園学科卒業

1990～1996年 総合建設コンサルタント、造園設計事務所等にて、公園や屋外空間の計画、設計等を行う

1996～1999年 青年海外協力隊員としてフィリピンに赴任：ダバオ市の University of Southeastern Philippines にて造園（大学のキャンパス拡張計画）に関する指導を行う

2000～2001年 インターメディアウム研究所（IMI）にて写真、デザインを学ぶ

2000年～ フリーで主に写真撮影、ビデオ撮影及び編集、web 及び印刷物デザイン等を行う

2002～2005年 写真専門ギャラリー NADAR にスタッフとして参加

2010年～ 京都の造園会社の依頼により、日本庭園の写真及び映像撮影を行う

2016年～ 写真専門ギャラリー gallery 176（大阪府豊中市）に運営メンバーとして参加

個展

2002年 二人展「融解／昇華」（NADAR、大阪）

2017年 個展「こどもかるた」（gallery 176、大阪）

グループ展

2001年 Photo Exhibition Horie 2001「見えない街 -sense of place」（堀江地区、大阪）

2016年「176 reborn」gallery 176（大阪府豊中市）

2017年 TAIWAN PHOTO 2017（新光三越、台北市、台湾）

web サイト

<http://mitikusa.net/>

お問い合わせ先

西川善康写真展「davao 1996-1999」に関するご質問、メディア掲載用画像の提供等のお問い合わせは、下記までお願い致します。

gallery 176（ギャラリー イナロク）

担当：西川善康

tel：050-7119-9176

e-mail：info@176.photos